

主催：(公社)岐阜建築士会 特別委員会 ぎふ木造塾

第1回 ぎふ木造塾 現場見学会

国土交通省 平成29年度 サステナブル建築物等先導事業(気候風土適応型)第2回採択プロジェクト

「東海地域の気候風土適応住宅」現場見学会

木組み・土壁・石場建てによる伝統工法の家づくりを 設計者・大工・製材業の方に説明していただきます。

日時：8月8日(水) 13:30-16:30 (雨天決行)

13:00	現場集合
13:30-15:00	現場説明(一宮の石場建て：建設中物件 2019年竣工予定)
15:00-15:30	移動
15:30-16:30	現場説明(愛知の石場建て：2016年竣工物件)
16:30	解散

会場：愛知県 一宮市 古金町・南小湊

受講料：無料 見学会詳細・集合場所・駐車場等は、8月3日に連絡いたします。



○ 受講申込書 FAX : 058-215-9367

○ 応募締め切り 8月1日(水)迄 定員20名 先着順

氏名

住所

TEL

FAX

携帯番号

E-mail

お申し込み先

公益社団法人 岐阜建築士会

〒500-8384 岐阜市藪田南5丁目14番12号 岐阜県シンクタンク庁舎4階
Tel 058-215-9361 / Fax 058-215-9367
<http://www.gifukenshikushikai.or.jp> / info@gifukenchikushikai.or.jp

○ 主旨

建築物のエネルギー消費性能に関する法律は、2020年の小規模建築物の義務化に向けて進んでいます。

このまま進むと、各地の気候風土と文化に合わせてつくられてきた伝統的木造住宅を建て難くなるのが危惧され、国土交通省より、2016年3月末に「気候風土適応住宅のガイドライン」が示されたことにより、伝統的木造住宅の継承の道がひらかれました。

今回、国土交通省・サステナブル建築物等先導事業（気候風土適応型）※に、東海地域の新築で初めて採択された伝統的木造住宅の現場見学会を企画しました。この住宅は、愛知県一宮市内に建設し、土塗り壁漆喰塗り内外真壁仕上げ（一部）、石場建て木造軸組み工法の他、屋根・壁・建具・畳等について、自然素材を用いた職人の手による伝統的な工法で家全体が構成されています。

現場で、設計者・大工・製材業の方に素材や工法を説明していただきます。きっと、自然の素材で作る家に触れる絶好の機会となるはずです。気候風土に適応した日本の家づくりについて、共に考えていく場にしたいと思います。

※ 地域の気候風土に応じた木造建築技術の継承・発展と低炭素社会の実現に貢献するため、伝統的な住文化を継承しつつ、環境負荷の低減を図るモデル的な住宅の建設に対して、国が掛かり増し費用の一部を補助する事業

○ 講師

設計者：水野 友洋 氏（水野設計室） 岐阜県加茂郡八百津町錦織 1152-2

大工：各務 博紀 氏（各務工務店） 岐阜県加茂郡八百津町久田見 1734

製材業：岡崎 元 氏（岡崎製材所） 岐阜県加茂郡八百津町八百津 3499

○ 建物概要

一宮の石場建て 2019年竣工予定 [施工：岡崎製材所]

内真壁石場建て：一部二階建て：専用住居：116.0㎡ ※平成29年度サステナブル採択事例

愛知の石場建て 2016年竣工 [施工：各務工務店]

内外真壁石場建て：厨子二階：専用住居：102.0㎡



東濃檜を中心に桧・杉・地松を、自然乾燥



樹齢100年を超す天然林の桧の大黒柱



小屋組みの地松の太鼓梁



大工の手刻みによる仕口と継手



木のめり込みを利用した木組みの構造



いぶし瓦の下地は杉のトントン



石場基礎、アンカーボルトやタボ類は不使用



基礎と上部構造を緊結しない石場建て工法



限界耐力計算により安全性を確認



筋かい合板不使用、耐震要素としての土壁



東海地域の土と竹を使用した土壁



維持管理のしやすい構造即意匠とし耐久性を向上